

は何かを起こしてくれそうな期待感を抱く一方、好奇のまなざしを向けてくる人もいる。自分で考え、一歩ずつ成長していく彼女らを私たちはやさしく見守っていききたい。その積み重ねがいつか大きな花を咲かせると信じて。

## 私たちの思い

地域の中で積極的に活動してきた彼女たちももうすぐ旅立ちの時を迎える。卒

業を前にした彼女らに、高校と地域をもっとよくするためにはどうしたらいいか聞いてみた。

古澤 もっと地域の人と触れ合える機会がほしい。学校の中では限られた地域の人としか交流できないし。

浦上 そのためにも鍋パーティーみたいなイベントを企画した時に、もっと地元の人が来てほしいよね。

柳瀬 うん。きっかけづくりが大切だね。もし、高校にその気がないんだしたら、行政にそれをお願したいです。そして、

地域の人たちも、私たち若い世代ももっと当事者意識を持つことが大切だと思います。

「愛の反対は憎しみではなく無関心だ」という言葉がある。

地域と触れ合う機会がなければ、それは無関心を招き、ふるさとへの愛着を失うだろう。例

えば、行政がやりがちな米子の高校へ通う生徒への通学費補助という「カネだけの関係」でふるさとへの愛着が果たして生まれるだろうか。少子高齢化や人口減少で、高校の存続やまちの活性化が叫ばれる中、大切なものを失って後悔する前に、一人一人の意識を変える時が来ているのかもしれない。

## 地域で子どもを育てる

日野高校の魅力向上を担う片平誓子コーディネーターは、高校の地域連携事業で、「地域サポーター」を募集し、生徒たちの成長に一役買ってもらおうと考えている。

片平 地域の皆さんに、農業や文化、芸術など自分の得意分野で生徒たちと一緒に学習活動を行ってもらいたいんです。

実際、「地域の中で行動しよう」をテーマに取り組んだ課題研究では生徒にある変化がみられたという。

片平 活動の初めと最後にとったアンケートを比較すると、ほとんどの生徒の自

己肯定感がアップしたんです。中でも「地域のことに興味関心がある」という項目では大幅な向上がみられました。

「地域で子どもを育てる」以前はどの地域でも行われていたことが、家族や社会のあり方が変化した昨今、その環境をつくるのが難しくなっているのも事実だ。

片平 イメージは高校生の「里親」。気軽に話ができる地域の人がいれば、自分のふるさとへの愛着がわき、子どもの成長に大きな役割を果たすのではないのでしょうか。

## 何かを変えるのは私たち

現在、日野高校に通う生徒の約7割が米子市などの日野郡以外から通っているだけでなく、日野町に住む高校生の多くが米子市に通学している。もし、高校がなくなったり、地域とかわる機会が無くなったりすれば、若い力が地元に戻らなくなってしまう可能性は高い。

町では、そうなってしまう前に、JK課の活動やふる

さと住民票といった取り組みを通し、町在住であるか否かを問わず、将来にわたってさまざまな形で町を応援してくれる人材（関係人口）を育てようとしている。

その取り組みは少しずつだがその芽を出しつつある。柳瀬 卒業後は県外に進学します。でも、必ず日野町に戻ってきたい。JK課も日野高校生だけでなく、日野町の高校生にももっと入ってもらって、自分たちの色を出しながら頑張ってほしいです。

坪内 私は保育士になって帰ってきます。ひのっこ？いいですね。

高校やまちの活性化などを考える上で、さまざまな立場でそれぞれの思惑がある。しかし、私たち地域住民は傍観者であってはならないと思う。一人一人の意識の変革で物事は変えられる。歴史上、たった一人で“革命”を成し遂げた人物がいないように。

そこにあるのは、何もしない未来か、希望ある明日か。どうかこの芽吹き始めた希望の芽を私たちで育てていきたい。





## 「ふるさと住民票」連携も提案

### 日野町関西地区在住者懇談会 「ひの郷会」総会

1月20日、関西地区在住の日野町出身者懇談会、「ひの郷会（小谷誠代表世話人）」の平成30年度総会が大阪市内で開かれました。

今回は、会員36人のうち7人が出席、前年度事業報告や収支決算、今年度の事業計画・収支予算が承認されたほか、今後の会活動につ

いての意見交換などが行われました。

その中で、「会員の高齢化で、活動もしにくくなってきている。町が進めている『ふるさと住民票』の取組と併せて事業に取り組んでみてはどうか。交流会に『住民票』登録者にも参加してもらい、親睦を深めたり、ひの郷会への加入も勧めたりできれば」などの意見も出され、活発な議論をする姿がみられました。

総会終了後の懇親会では、テーブルを囲んで各自の近況などを話しながら旧交を温めました。

「ひの郷会」は、会員の親睦と日野町との交流などを目的に、春の花見会や、町内での交流会などを行っています。

久しぶりに顔を合わせた会員ら



## 伝統行事で深まるきずな

### 黒坂・菅福地区でとんどさん



火を囲み一年の無事を祈る

一年の無病息災を願う地域行事、とんどさんが、1月14日、黒坂地区コミュニティ推進協議会（中原明会長）主催で開かれました。

会場となった黒坂小学校校庭には、黒坂地区などから多くの人が正月飾りや書き初めなどを持って集まりました。

校庭の中央に立てられた約20メートルの竹を囲んで地域の住民や子どもによる火入れが行われ、参加者は燃え盛る炎に家内安全や無病息災などを祈っていました。

また、会場では、ぜんざいと甘酒が振る舞われ、地域住民らは交流を深めていました。

## 一年の精進を誓う、新年の風物詩

### 空手寒げいこ



張りつめた空気の中、真剣な表情で形を披露

寒さの中で心身を引き締め、今年一年の精進を誓う、少林寺流空手道錬守館（音田守館長）による空手寒げいこが、1月28日、日野町農業構造改善センターと日野川で行われました。

当日は、郡内外の小学生や中学生などを中心として多くの会員が参加。子どもたちは、空手の形の演武、足蹴りでの板割りなど、一年間の成果を披露しました。

最後は、家族らの声援を背に勇気を出して日野川に入り、「えいっ、えいっ」とかけ声を合せ、拳を突き出していました。